

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.2(2021年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『フォン・ノイマンの哲学』

人間のフリをした悪魔 高橋昌一郎

今この文章を打ち込んでいるコンピュータ。簡単に手に入る普通の製品ですが、普通のコンピュータは実は「ノイマン式コンピュータ」と呼ばれてるんです。この本は、コンピュータや「ゲーム理論」の産みの親であり、同時に核兵器の開発にもたずさわったノイマンの評伝です。十一歳で大学院レベルの数学を解くなどの恐るべき頭脳を持ち、科学の発展に多大の貢献をしながらも、「広島ではなく京都に原爆を落とした方が日本人の戦争意欲を喪失させて良い」と考えるなど冷酷な一面もあったノイマン。その正負の側面を丁寧に解説します。

J・ヴェルヌの新訳 2冊入りました。

「地球空洞説」を知っていますか。この地球の中はちょうどゴムボールのように空洞の別世界だ、という考えです。ジュール・ヴェルヌの『地底旅行』は、この空洞になっている地球の内側を旅する冒険小説で、何回も映画化されています。また仏語の原題を英語に直訳すれば『Journey to the Center of the Earth (地球の中心への旅)』で、実は東京ディズニーシーのアトラクションの名前にもなっています。

『るるぶ宇宙』

旅行ガイドブックの先駆けとして、40年近くにわたって様々な旅行先を紹介してきた「るるぶ」ですが、何と今回はついに宇宙へ飛び出してしまいました！実際の旅行プランも載っていますが、例えば「〇〇社の月周回旅行プラン」だと最低でも1名七百万円、「△△社の日帰り無重力体験」でさえ約三千万円と「どこのセレブが行くの!？」っていうため息が出そうな額ばかりですね・・・でもどんな宇宙旅行なのか、読むだけでも面白いですし、未来の宇宙旅行の予想(妄想?)とか、宇宙センターとか科学館などの「現実味のある」観光施設の紹介も盛りだくさんですよ。

『本当の自由を手に入れる』

お金の大学 両@リベ大学長

学校の授業ではあまりお金の使い方を学びませんね。また諸君は若いので老後のことなんか考えないかも知れませんが、2007年生まれの人の2人に1人は103歳まで生きると言われています。定年が仮に60歳としますと、定年後43年間も生きるわけですね。この本を読んで、お金のため方や「売るときに高く売れるモノの買い方」などを学んでみませんか。

『白鳥とコウモリ』

東野圭吾

本校でも大人気の作家の最新作です。ある弁護士が殺され、倉木という男が殺人を自供しました。「三十年前のある殺人事件の真犯人は自分だ。しかし別の人物が警察から疑われ、そのまま容疑者として死んでしまったので、自分は彼の遺族に金銭的つぐないがしたい」と倉木はその弁護士に相談していたのです。しかし弁護士は「お金など渡してもつぐないにはならない。自分が真犯人であることを遺族に告白すべきだ。」と言われ、彼が遺族に真実を伝えようとしたので殺害した、と倉木は言うのですが・・・

『二平方メートルの世界で』

前田海音 文 はた こうしろう 絵

小学3年の前田さんが脳神経の病気の治療を送る毎日や色んな想いを描き、「子どもノンフィクション文学賞」の大賞を受賞しました。これが人気絵本作家のはた氏の目にとまり、二人のコラボでこの絵本が実現したんです。ひたむきで切ない文章と色鮮やかな絵を味わって下さい。



『バイリンガル版 SHERLOCK』

ピンク色の研究』S・モファットほか
携帯やネットを操るホームズの現代版・SHERLOCK。イギリスBBCで人気を博したドラマが日本語と英語のバイリンガル版となって図書館にやってきました。BBCで放送時の英語そのまま。ネイティブの英語は勉強になりますよ。

『自閉症の僕が跳びはねる理由 2』

東田 直樹

重度の自閉症者として生まれ、「おたけび」のような奇声を発することもあり、人との会話が困難で、大人になっても子どもの心が失われずNHKの『おかあさんといっしょ』を変わらずに見て楽しむ作者。しかし一見知的障害者にも見える彼には、詩や小説も書く知的な側面もあります。この本は、20か国以上で翻訳され世界的なベストセラーになった『自閉症の僕が跳びはねる理由』の続編です。また、この4月に公開された映画『僕が跳びはねる理由』は、この本を元にしたドキュメンタリーです。

『52ヘルツのクジラたち』 町田そのこ

書店の店員が最も売りたい本を表彰する「本屋大賞」。今年を受賞作であるこの小説の題名は、他のクジラとは声の高さが違うクジラのこと。いくら大声を出しても、仲間にはその声は届かない世界一孤独なクジラ・・・作者はこの作品で、虐待児童や家庭内DVなどで虐げられている人の「声なき声」をすくいあげたかったのだそうです。

今号のひとこと

You have to be absolutely frank with yourself.

Face your handicaps, don't try to hide them.

Instead, develop something else.

自分自身には絶対に正直でなくてははいけません。あなたにとって不利な事柄にちゃんと向き合って、それが見えないふりをしないで下さい。そんなことをする代わりに、ほかの事を良くしていけばよいのです。*

オードリー・ヘプバーン (1929-1993)

死後も長らく人気不衰、さまざまなCMの広告媒体に使われ続けるオードリー。日本でも特に人気の高いハリウッドの女優ですが、40代を迎えてからの彼女はあまり映画に出演せず、国連のユニセフなどで子どもたちの支援をする活動をライフワークとしていました。

※出典：バリー・パリス『オードリー・ヘプバーン』